

<第2議案>

2003年度収支決算（案）

15~16ページの2003年度収支計算書（自2003年1月1日 至2003年12月31日）と貸借対照表（2003年12月31日現在）をもって、2003年度収支決算とする。

<説明>

2003年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 会費収入について

2003年度は、現実的な見込みとして20名の会員増を想定したのに対し、42名の新規入会を達成したが、ほぼ同数の退会者があり、会員の正味増は達成されなかった。現会員からの年会費回収も予想を下回り、対予算比で92万円の減となった。（2002年度実績との対比では、88万円の減。）会費収入全体では、87万円の減であった。

2. 事業収入・支出について

[収入] 全体としてはほぼ予算通りであるが、「ミサイル防衛」の販売収入が、対予算比で約4割と伸び悩んだ。「核兵器・核実験モニター」も対予算比で約7割であった。

「核兵器・核実験モニター合本」の出版は2004年度に持ち越された。予算化されていなかった事業が2つあった。「米軍海外基地動向調査」と「韓国インターンの受け入れ」である。前者（50万円）は、「情報サービス」として収入を計上、後者（60万円）は助成金（一食平和基金）として収入を計上した。

[支出] 全体としては、予算をやや下回った。その他の事業費には前述の「一食平和基金」による韓国インターン受け入れ経費60万円が含まれている。「核兵器撤廃への道」は、35万円の仕入れを予算化していたが、未執行である。

3. その他の科目について

- 寄付金収入：対予算比33万円の増。
- 管理費支出：対予算比45万円の減。
- 雑収入と予備費：正味14万円の対予算比支出減。

総括として、予算では約20万円の収支黒字を見込んでいたが、決算では約93万円と、対予算比約73万円の増であった。この結果、2004年度への繰越金は約490万円となった。